

## 今月のみことば 2019年10月

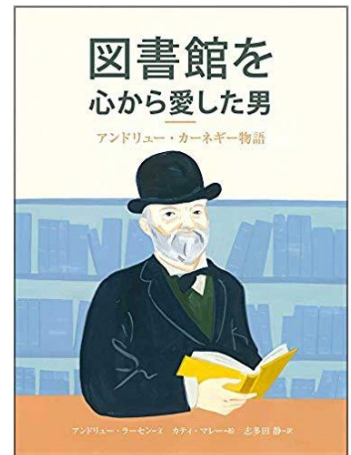
「種蒔く人に種と食べるためのパンを与えてくださる方は、あなたがたの種を備え、増やし、あなたがたの義の実を増し加えてくださいます。あなたがたは、あらゆる点で豊かになって、すべてを惜しみなく与えるようになり、それが私たちを通して神への感謝を生み出すのです。」

(コリント人への手紙第二 9 章 10～11 節)

# 図書館を愛した鉄鋼王

「図書館を心から愛した男」という絵本があります。

その人の名は“鉄鋼王”として知られるアンドリュー・カーネギー。ニューヨークのカーネギーホールは、彼の寄贈した有名なコンサートホールです。彼は貧しさのゆえにスコットランドから両親と共に渡米した移民です。家計を助けるために 8 才から働くことを覚えた彼は、15 才で電報配達人となりました。その頃に出会ったアンダーソン大佐は、働く少年たちのために、個人図書館を解放しており、カーネギーも本を通して、多くのことを学びました。のちに彼が実業家として成功し、巨万の富を得た時、まず恵まれない人のために図書館を寄贈したのはこのときの喜びを忘れなかったからでした。



電信技術を覚えたカーネギーは鉄道会社で電信技士として働くようになり、親しくなった青年たちでサークルを作りました。場所を提供してくれた長老教会の牧師館で、人生について、生と死の問題について話し合っているうちに、日曜礼拝に出席するようになりました。彼はこの時初めて、「人間はこの現世だけでなく、永遠の国で生きることが出来るのだ」ということを知り、「財産や名誉、地位を抱えて天国に行けるわけではなく、大切なのは永遠の命を与えてくださるキリストを信じる信仰なのだ」と考えました。

鉄道会社で懸命に働いたカーネギーは貯蓄を投資で増やし、35 才で鉄鋼会社を設立し大富豪となりました。有り余るほどの大金を手にした時、カーネギーはかつての自分のように、「多くの人々が、本から学ぶ機会を持てるように」と公共図書館を建てることにしました。まず、生まれ故郷の小さな村に最初の図書館を作ったカーネギーは、世界中の国々に公共図書館を作るための寄付を続けて、2500 以上もの図書館を建てました。彼は「裕福な者はその富を、世の中を豊かにするために使うべきだ」と信じていました。カーネギーの残した有形無形の遺産は今も各地の公共図書館に受け継がれています。

「ニューヨーク公共図書館」というドキュメンタリー映画が 8 月長野ロキシーで上映されました。「世界で最も有名な図書館の舞台裏」という副題のとおり、85 の分館で行われている様々な取り組み、それを企画するスタッフたちの会議が淡々と映し出されていましたが、それは日本で知られている図書館の役割をはるかに超えていました。例えば、貧しい人たちが情報を得られるようにインターネットの貸し出し、職業紹介、働く両親のための託児の提供などです。運営資金はニューヨーク市と賛同者からの寄付によります。ですから、市立図書館ではなく、公共図書館なのです。

130 年前にカーネギーの始めた働きが今も受け継がれ、世の中を豊かにしていることを、この映画を通して知ることができます。カーネギーがこの世を去る時までに、財産の 9 割はすでに社会のために使われており、遺産のほとんどは彼の意志により寄付されました。

キリストを信じる信仰によって、カーネギーは多くの人々に祝福を残しました。私たちもキリストを土台にして人生を築くとき、祝福の実を結ぶことができるのです。(O)